

(目次)

・「子どもは本を生きている」	P 1
・「教室はまちがうところだ」報告	P 2
・早くできるといいね！新県立図書館！	P 3
・子どもが本と出合ったら	P 4
・「椎名誠氏講演会」に今からワクワク！！	P 5
・図書館からこんにちは	
・市内図書館ニュース	P 6
・リレーエッセイ・「ほっとコーナー」	P 7
・これからの事業日程	P 8

第20号：2018年9月

「子どもは本を生きている」

静岡県立大学短期大学部

永倉みゆき



先日、本学で「バリアフリー児童図書展」*を開催した時のことです。期間中いろいろな方が見に来れましたが、最終日に4歳の女の子がお父さんと一緒にやってきました。

その子は「私、絵本好きなの」と言って、「おおかみと7匹の子ヤギ」の布の絵本でごっこ遊びをした後、1冊1冊に興味津々の様子でしたが、そのうち1冊の本の前に立ち止まりました。それは『マリामのレバノン・ピザ』（文 Mheidly,Nabiha、絵 Merhej,Lena 原題：Mankoushit Mariam、2013、出版社 Dar al-Hadaek）という、薄くどちらかというと地味な絵本で、マリामという女の子がレバノンピザを作る手順を写真と絵とで描いたものでした。

主人公のマリामは、手だけの登場で、絵本の上から手が伸びていて、中心には作られていくピザが描いてあります。私が何気なく「この手、ちょうどRちゃんと同じ大きさだね」と言うと、Rちゃんは急に目を輝かせて、絵本の手に分自分の手を重ねると、くるりと絵本の上下を返し、「ぎゅっぎゅっ」など声をあげながら「粉をふるって」「こねて」「伸ばして」と絵本のページに合わせて演じ始めました。まるで紙の絵本が突然本物のピザ作りとして立ち現れてきたような感じでした。そして、最後のマリाम（よく見るとこの子に障害があることがわかります）と3人の男の子が、焼けたピザを持っている写真付きの絵のページまでくると、Rちゃんは、「へえー、この家族が作ったんだ…」と発見したように言い、「この子、ピザ作るの上手ねえ」と心から感心したように言って読み終えたのでした。レバノンのマリामとRちゃんがまさに人と人として出会った瞬間でした。

日頃から学生に絵本の力について話している私ですが、こんなにリアルに絵本がその子の生活の一部になるところを初めて見ました。ここには2つの秘密があります。

まずは、自由な子どもの発想です。私もすてきな本だと思っはいましたが、Rちゃんのように本の手と自分の手を合わせて遊ぶことなど考えてもみませんでした。子どもは時々このように大人の発想を超えた読み方をし、新しい本の魅力に気づかせてくれます。

そしてもう一つは、間を取り持つ大人の存在です。読まなければわからない、静かな魅力をもった本を開くきっかけを作った大人（ここでは私）がいなければ、子どもがその本と出会う機会はなくなり、大きな声で子どもを惹きつけるような目立つ本だけとの付き合いになってしまう可能性があります。

図書館には多くの宝物が眠っています。その宝に気づいた人は、すでに図書館に足しげく通っていることでしょう。しかし、まだ気づかぬままに図書館に来ている人も多いのです。調べる役に立つ本の利用も重要な図書館の機能ですが、このRちゃんの経験と同じく人と出会うように本と出会うことができたら、どんなに毎日の生活が豊かになっていくことでしょう。このような出会いをつくりだす図書館や、そこにいる司書の役割の大きさを改めて感じさせられた夏の日のお出来事でした。

* 世界で刊行された児童図書の中から「障害を持った児童のために特別に配慮された本」「障害のある子どもも共に楽しめる本」「障害について書かれた本」という視点で、IBBY（国際児童図書評議会）により、50冊選出された本を展示する展覧会。

「静岡生まれの絵本『教室はまちがうところだ』の世界」報告

静岡図書館友の会・運営委員 太田 典子

8月19日（日）、静岡市立中央図書館2階視聴覚ホールを会場に静岡生まれの絵本「教室はまちがうところだ」の世界を静岡市立中央図書館との共催で開催した。

作者の故蒔田晋治氏は静岡市で教鞭をとり大勢の教え子から慕われていた。今年は没後10年。先生の子供達や教育への熱い想い理念に改めて触れてみよう企画したものだ。

★ 午前の部は子ども向けワークショップ。

幼児、小学校低学年26組の親子が参加。絵本作家の長谷川知子先生の軽妙なお指導で“走らせマシーン”を制作。画用紙に参加者が絵やデザインをして車体とし、ペットボトルの蓋4個に穴をあけ車輪に、竹串の車軸に通した洗濯バサミで固定したら素敵なマシーンが完成。ホールの床じゅうたんの即席レース場で競い合い。「たのしかったー」の声を残し自慢の1台をお土産に終了。

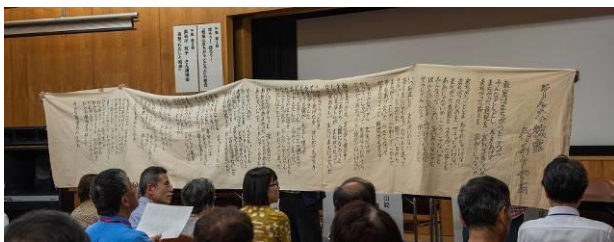


“走らせマシーン”制作風景

★ 午後は大人向け。2部構成で開始。

☆ 第1部は「知ろう！語ろう！『教室はまちがうところだ』の原点」。

この絵本の元になった詩は昭和42年静岡市で開催された全国作文教育研究大会の会場に掲示されたことで全国に知られるようになった。現在も詩を活用実践する現役教師による絵本の朗読が終わるとなんと蒔田先生直筆の巨大な横断幕の実物が50年の時を経て会場に掲げられ70名の参加者からは一瞬のどよめきが……。



故・蒔田先生直筆の巨大な横断幕

その後年譜の紹介に合わせ隠れた3つのエピソード

ードや韓国、中国、台湾等でも刊行済みと紹介。次にご家族、教え子等が壇上に。年代の違う教え子3名は書くこと、読書の大切さを教わりいずれの方もその後人を育てる仕事に就かれた。早逝された海野光弘氏を版画の道に導いたのも先生だった。ご家族の持つ寡黙な父の印象に対し教え子や現場の後輩はむしろ饒舌だったと……。このギャップに意味があるのでは？ 絵本（詩）の最終章 まちがうことがなぜわるい／まちがってることわかればよ／人が言おうが言うまいが／おらあ自分であらためる／わからなけりゃあそのかわり／だれが言おうとこづこうと／おらあ根性まげねえだ 後輩教師はまさに先生ご自身だったのではと。かつてこの静岡にこの信念を貫いた一教師がいたことを広め引き継いでいきたいと。海野氏の奥様から光弘氏の版画ハガキが参加者全員にプレゼントされ一部を終了。



7名のゆかりの方々

☆ 第2部は『教室はまちがうところだ』の絵本作家 長谷川知子さんの講演「わたしと絵本」。

壇上に上がるや白板に北海道の地図を難なく書き上げ18歳迄住んでいた故郷北見にまつわるお話を愉快地にされた。しかし当時のご自身の悩みや葛藤は深くこんなでしたと絵で表現。上京し美大卒業後も紆余曲折を経て挿絵画家から現在の絵本作家に。既に月刊誌等を含め300冊位の作品がある。素材があっても世に出るタイミングが難しい。「教室はまちがうところだ」の話を頂き詩を読んだ時これはいけるとの実感があり全力で取り組んだとの事であった。



「わたしと絵本」講演風景

早くできるといいね！ 新県立図書館！

静岡図書館友の会運営委員 草谷 桂子

新県立図書館は東静岡駅前に全面移転が予定されています。現在は基本計画作成中ですが、本来の図書館の役割を大切にしたい素晴らしい図書館の早期実現が待ち望まれます。

基本構想では、

- ① 「県民の生涯学習・読書活動の拠点としての図書館」
- ② 「ふじのくにのことなら何でもわかる図書館」
- ③ 「県内市町立図書館等を強力に支援する図書館」
- ④ 「県民が出会い交わり、新しい文化を育む図書館」を謳っています。

「望む会」では、7月に鈴木一吉静岡県教育長にお会いし下記のことをお願いした文章をお渡ししてきました。抜粋してご報告します。

~~~~~

上記4本柱の①～③は、90年にわたる県立図書館の蓄積を活かし、運営の礎としたい。設備が大きくなることを踏まえ、下記の部分をさらに補う必要があると考えます。一刻も早く開館する為にも、継続性、専門性のある現体制を守っていただきたいと思えます。

- ・全ての年代層への資料と情報の収集と提供
- ・バリアフリー、多文化サービス等の視点の資料と情報の収集と提供
- ・情報の国内外への発信と受信
- ・国際的な視点を持つての大学や研究機関との交流
- ・地域資料のさらなる充実
- ・貴重資料のデジタル化と公開
- ・貸し出しを始める児童書の複本購入
- ・学校司書や読み聞かせグループ、市町図書館の支援に役立ってきた子ども図書研究室の役割とノウハウの強化（研究室の職員常駐と増員）

上記実現には、十分な資料費と図書館に精通した専門職員の増員が必要です。司書職採用の再開、司書有資格者の配置、長期研修の充実など早めの対策が必要と思えます。

## ④ 「県民が出会い交わり、新しい文化を育む図書館」について

は、これからの図書館に求められる機能でもあり、「商業的なにぎわい」だけではない「文化的なにぎわい」であることが、「文化力の拠点」に相応しく、地元、地域の人的活力・物的資源を最大限利用し、静岡県の発展につながるようなワクワク感のある県立図書館が望まれます。

図書館が教育委員会の直営であることを望む理由は次の通りです。

- ・移行に労力と時間をかけることなく、1日も早く県民の待望する新県立図書館を作る事ができます。
- ・教育委員会の中にあることにより、学校教育と円滑な連携を図ることができ、児童青少年の育成に寄与することができます。
- ・教育委員会の中にあることで、継続性・専門性・政治的中立、図書館の自立と自由が担保できます。

~~~~~

今まで、2月に建築家の寺田芳朗氏による「新しい図書館ができるまで～施設計画の視点から」、5月に鳥取県の元教育長の中永廣樹氏による「地域づくり・人づくりと図書館の役割」の講演会を開催し、いずれも大勢の参加者をいただき好評でした。9月29日に、第3回企画として、筑波大学図書館情報メディア系教授の吉田右子先生をお招きし、図書館先進国である北欧やオランダの基礎自治体における図書館サービスについてお伺いします。大勢の皆様のご参加をお待ちしています。

子どもが本と出会ったら

静岡市立中央図書館麻機分館・主査 春寄 由紀

麻機分館に配属されてから1年が経とうとしていたある日のこと。利用者の方から「この本のおかげで、子どもがテレビに出ることになりました！」と声をかけられました。

その後、放送日が決まったと再度報告をいただき、詳しくお話を聞くことに。少年は、この分館をよく利用してくれている小学5年生の山村悌公（ともき）くん。どうやら昨年の夏、児童の特集コーナーで手にした『ダンゴウオの海』（鍵井靖章／写真・文 フレーベル館 2015年）を読み、その生きるチカラに感動し、「海にいるダンゴウオに会いたい！」と『探偵！ナイトスクープ』（朝日放送テレビ）という番組へ「一緒に探してください」と依頼したというのです。そして、この依頼が採用され、春休みのある日、石田靖探偵が悌公くんの家にやってきたのです！

本の作者である鍵井靖章さん、実は石田探偵の友人でした。石田探偵が鍵井さんに電話で聞くと、「この時期なら鳥取の海にいるのでは…」とのこと。さらに鍵井さんは続けます。「海の中はとっても寒いんだよ」「冷たい海に潜ったらきっと後悔することになるよ」。

しかし、どうしてもダンゴウオに会いたい悌公くんは、石田探偵とともに鍵井さんの待つ鳥取へ向かいました。

初日はレクチャーを受け、潜水しようとしたのですが、底が見えない恐怖も手伝って潜ることはできませんでした。しかし、そんなことで悌公くんはくじけません。二日目は水も澄み、ついに潜水することができました。

海に潜ってすぐ、鍵井さんがダンゴウオの赤ちゃんを発見！45分で3匹も見ることができたのです。その時の感想を聞くと、「やっと会えた!!」と思いました。図鑑で調べて、頭に天使の輪がある赤ちゃんに会いたかったので、海の中で一回転したいくらいうれしかったです！」と笑顔で答えてくれました。

悌公くんはすっかり鍵井さんに憧れ、今でも連絡を取りあっているそうです。鍵井さんから「海に潜るときは、魚たちの世界におじゃまさせてもらっているという気持ちを忘れないようにしている」「広い海の中では、小さい者も大きい者も分け合って生きている」と教えてもらった悌公くんは、海や魚のことだけでなく、色々な勉強をして資格を取り、魚の博士になりたいと思うようになりました。

その後の悌公くんには、さらに大きな変化がありました。引っ込み思案でおとなしい性格だったのが、磯遊びに行くときと他の子に生き物の名前や生態を教え、積極的にゴミ拾いをして帰るようになったそうです。悌公くんは、海の世界にも興味を持ち始め、その世界をますます広げているのです。

図書館の仕事は、数字ではかることは難しく、結果や成果が見えにくいものです。また成果が出たとしても、私たち職員に伝えてくださる方はごくわずかです。そんな中で今回のケースは、子どもと本が出合ったことで引き起こす化学反応を見せていただけました。

特集コーナーをはじめ、館内の雰囲気づくりに力を入れてきた私たちにとっては、大変励みになる出来事でした。これからも麻機分館が素晴らしい出会いの場となるよう、一層努力してまいります。



【山村悌公くんと鍵井靖章さん】



『椎名誠氏講演会』に今からワクワク！！

静岡県立大学短期大学部附属図書館 鈴木 由美

昔から、椎名誠さんのファンでした。この度、私の椎名誠さんへの愛について好きなだけ書いてよいとスペースを頂きまして、緊張します。そもそも、なんてお呼びすべきかから迷います。「何をご紹介しますのかな？」と思い、「椎名誠」で検索してみたら…

…なんてたくさんのご著書がおありなんでしょう！そして、私ったら、ファンって言うほど読んでくない？色々心配ですが、とにかく書いてみます。まずは『岳物語』です。もはや説明の必要もないほど有名……と思っているのですが、椎名さんのご子息「岳くん」の成長を、愛情たっぷりに描いています。読んでみると、もはや岳くんが自分の甥っ子に思えてきます。『孫物語』もありまして、「まあ、あの岳くんがお父さんになるなんて！」と、おばさん感激です。椎名さんの奥様で、岳くんのお母さんの一枝さんも素敵なんです。こんな完璧なご両親に育てられ、岳くんは幸せだなと思っていました。ところがところが、そりゃそうですね、書かれたほうは心穏やかではないですよ。ということで、ぜひ大人になった岳くんご本人の弁も掲載の『定本岳物語』で読んでいただきたいです。

次は、『わしらは怪しい探検隊』シリーズ。椎名さんと怪しくも楽しい面々が、日本全国津々浦々どこか世界を股に掛け、テントを張って焚き火を囲んで、酒池肉林あるいは鯨飲馬食……というだけではこの壮大なハチャメチャさは伝わらないですね。仲間に入りたいたいような入りたくないような。生来インドア派の私には、ビアガーデンぐらいが関の山です。

そうそう、「冷やしすぎたビールはまずい」というのは、椎名さんからの受け売りです。思えばたくさんのお話を教えていただきました。『よあけ』（シュルヴィッツ作・画福音館書店）に描かれた焚き火は、煙の上がり方が実に素晴らしいそうですよ。それから、「エレベーターのアナウンスに返答する遊び？」つまりですね、「5階です……。」に対して、「いやあ、奥さん、ほかあ誤解なんかしちやいけませんよ。」と返すのです。これ、ハマります。「まずいラーメンも愛する。」には心底共感！（もしかすると「カレー」だったかもしれません。）私はうどん好きでして、どんなにまずいうどんでも、そこにうどんがあれば幸せです。……これらのエピソード、ソースを確認しようと思ったのですが、ご著書が膨大過ぎて調べられませんでした。間違っていたらごめんなさい。今回、私の人格のかなりな部分が椎名誠さんによって形成されていることを認識してしまいました。

さてさて、ご本人の青春を描いた『哀愁の町に霧が降るのだ』とそれに続く『新橋烏森口青春篇』『銀座のカラス』。若き椎名さんの弾けっぷりと紆余曲折がしみじみ面白いです。青春をともに過ごした仲間たちとの『発作的座談会』は、熱く語り合うその内容に脱力します。それから、『全日本食べばわかる図鑑』に代表される食エッセイ（という枠組みに収まっていないのですが）の数々も傑作ぞろい。さらには、エッセイばかりか、椎名さんのSFもよいのですよ。あれ、これもう書けない……あとはとにかく読んでー！どれを読んでも面白いですよー！！

2019年度 静岡図書館友の会 創立10周年 記念講演会のお知らせ

【日時】 2019年3月9日（土）午後
【会場】 静岡県総合研修所もくせい会館 1階 富士ホール
【記念講演会】 講師：椎名誠氏 演題：未定

※皆さんの参加をお待ちしています！！

「SNS と図書館」

静岡市立中央図書館 主事 小松 英史

インターネットが急速に普及した中でも SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)は現代社会と切っても切り離せない存在になっていると思います。SNSにはFacebook、Instagram や Twitter が代表的なものとして挙げられます。静岡市立図書館でも平成 29 年7月に公式 Twitter を開設しました。図書館情報の発信は、「図書館だより」、「図書館ホームページ」、「市の広報紙」などにより行っています。しかし、これらの方法では図書館に関心のない方や若者に対する情報が行き届きにくくなっています。したがって、SNS を活用した施策として情報の即時性や若い世代に情報発信でき、SNS でリアルタイム性がある Twitter を開設するに至りました。

静岡市立図書館の Twitter は「名もなきパンダ」という名前のキャラクターであるパンダが“ゆる〜”発信しています。固い文章や文字の羅列だけでは、魅力的な情報発信とは言えないと思いま

した。したがって、パンダに愛着を持っていただき、ひいては静岡市立図書館に興味を持っていただくため、あえて砕けた言い方や写真を多く使って情報発信をしております。そのかいあつてか、大きな反響があったこともあり、Twitter ならではの情報発信の効果があったと思います。

あと 10 年もすればまた情報革新が起き、新しい SNS が生まれるかもしれません。幅広い世代に図書館に足を運んでいただき、読書に親しんでいただくためにも SNS などを活用した図書館の PR にも力を入れて取り組んでいきたいと思ひます。

よろしければ皆様もぜひフォローをお願いいたします！



市内図書館ニュース

「いつまでも生き生き元気に脳活性！！」

静岡市立西奈図書館・非常勤嘱託 黒田 美佐

西奈図書館では、日頃利用者の関心が高そうな「脳活性」に着目し、講師を招いて「シナプソロジー講座」を開催しました。シナプソロジーとは、二つのことを同時に行ったり、左右で違う動きをするなど、慣れない動きで脳に適度な刺激を与え、活性化を図るものです。

講座の前半は、シナプソロジーについての説明や普段の生活に役立つ運動、また心掛けるとよいことなどについてお話を聞きました。

後半は、実際に5種類のシナプソロジーを行いました。そもそもシナプソロジーは、できるということよりも脳を混乱させることが重要とのこと。終始、和やかな雰囲気の中、みんなで楽しんで行うことができました。

最後に、体幹を鍛え転倒防止にも役立つ体操を教えていただき、どれも手軽にできるものばかりで、すぐにでも生活に取り入れられそうでした。

本講座での学びが参加者の方々のこれからの生

活のヒントになれば幸いです。

これからも利用者の興味・関心に合った講座を企画・開催したいと思います。



講座風景



海岸寺の百体観音を訪ねて

静岡図書館友の会・副代表 山田 健司

甲斐の山里は柿の実で華やぎ、奥山の木々は枯れなずんでいた。

補陀落山の静寂な森に孤絶の島のような海岸寺を友人と連れだって訪ねた。この寺には信州高遠藩の江戸時代後期の名工守屋貞治が八年もかけて彫った百体観音が安置されている。

質素だが重厚な山門をくぐって、すり減った石段を上ると境内の銀杏の大木の傍らには馬頭観音。黄色い絨毯状の落葉が木漏れ日に金色に輝きその光りをあびて居並ぶ百体観音たち。西国三十三か所、坂東三十三か所、秩父三十四か所の全霊場の観音がここに一堂に安置されてその光景は荘厳で見事だ。

もともと石仏は大寺院の裏側や山里のお堂や山寺や野の道ばたに雑草に埋もれて立つのが多い。これらは時の権力者などによる発願や造立ではなかった。近世には民衆の浄財で造ら

れ、信仰と強く結びついて生活のなかに溶け込んでいった。だから各時代の民衆の信仰や生活感情を知るうえで石仏はいつも変りなく豊かに語りかけてくれるのだ。

葉擦れと落葉を踏みしめる音だけの世界で観音たちと向き合う。そして祈りながらこのなかで対話する。なんと穏やかな顔。瞑想する眼。平和で泰然と構えている観音たち。その美しさに息をのみ慈悲のところが伝わってくるようだ。そしていつの間にか、若かった頃の明日へのエネルギーがよみがえってきたような心地よい気分になっていた。

晩秋の海岸寺の夕暮れは早い。未完成の中部横断自動車道には前も後ろも車は走っていない。海岸寺の世界との落差を感じながら、友人と贅沢だと云って帰路についた。



登呂遺跡

～ しずとも「ほっとコーナー」～

「トロベーといっしょに～」

静岡市立登呂博物館館長 宮本 博之

3年間中央図書館の副館長として在職中は、友の会の皆様には大変お世話になりました。3月の人事異動で、想像もしていなかった博物館へ異動し、あっという間に数か月が経ってしまいました。静岡市民なら、誰もが知っている登呂遺跡。でも、「そうだったんだ～」。というポイントがいくつかあります。この場をお借りして、登呂遺跡・博物館のPRをさせていただきます。

・実は国宝級

特別史跡登呂遺跡は、有形文化財で言う国宝と同じ扱いです。国指定史跡の約1800件中、特別史跡は、62件(約3%)であり、弥生時代の遺跡では、登呂、吉野ヶ里、原の辻(長崎県壱岐島)の3か所しかない中で、最初に指定を受

けています。

・重要文化財指定が755点ある博物館

登呂遺跡の発見、発掘は、戦後考古学の出発点と言われています。登呂の発掘を期に、日本考古学協会は発足しました。

図書館では当たり前の、入館料無料ですが、博物館法でも、「公立博物館は、入館料を徴収してはならない。」と書かれています。ところが、「但しやむを得ない事情があるときは、徴収できる。」と続いているため、この条文は、主旨が忘れられています。ほぼ同時期に、成立した2つの社会教育施設の法律に明暗が分かれたことを感じさせられます。図書館は、知ることの平等を守る先人の努力が生かされたのでしょうか。

これからの事業日程

～ 2018年度後半からの事業について、ご案内します ～

■ 【吉田右子氏 講演会】 : 第3回 新たな静岡県立図書館を考える講演会

- 日時 2018年9月29日(土) 13:30～
 - 演題 「真のにぎわいを生む北欧の公共図書館」
 - 会場 静岡県立中央図書館
 - その他 : 申し込み不要、資料費500円 (学生は無料)
- 基本構想案が2018年3月に完成し、静岡県立図書館の新館計画もより具体的になってきました。今回の講演は、筑波大学図書館情報メディア系教授の吉田右子氏をお招きし、図書館先進国である北欧やオランダの基礎自治体における図書館サービスについて伺います。海外の図書館先進国の事例を知ること、新しい県立図書館のこれからの考えるヒントにしましょう。

■ 【2018しずとしょフェスタ】 ～「図書館と公園」 ふたつ楽しむ日曜日～

- 日時 2018年10月21日(日) 10:00～16:00
- 場所 静岡市立中央図書館 & 城北公園
- 内容 ・手回しオルガン ・クラウンと遊ぼう ・「お茶」の講座・試飲 ・おはなし会
・福祉コーナーにて対面朗読と録音図書づくり体験 ・図書館ツアー
・移動図書館車展示 ・フィルムコートかけなど
- 申込 不要(直接会場へ)
- 問合せ 静岡市立中央図書館 Tel 054-247-6711
- 交通 来館は公共交通機関をご利用ください。 中原池ヶ谷線(唐瀬方面)「大岩本町」下車
- 共催 静岡市立中央図書館・静岡図書館友の会
- 協賛 あさはたお話の会・静岡おはなしの会・静岡ひびきの会・ねこバス

■ 【静岡市の「コンパクトシティ構想」について学ぶ】 ※ 静岡市都市計画課からの出前講座

- 日時 2018年10月29日(月) 18:30～20:30
- 会場 アイセル21 45集会室

図書館のこれからの考えるうえでも、コンパクトシティ化は重要なキーワードになります。今回はこの「静岡市立地適正化計画」について都市計画課からの出前講座で学びましょう。

■ 【2019年度 静岡図書館友の会 創立10周年 記念講演会】 ※ 関係記事がP5にあります。

- 日時 2019年3月9日(土) 午後
- 会場 静岡県総合研修所もくせい会館 1階 富士ホール
- 講師 椎名誠氏 ※ 演題:未定

皆さんの参加をお待ちしています!

静岡図書館友の会会報 No.20 2018.9

静岡図書館友の会 代表 田中 文雄

連絡先:(総務携帯)080-6910-9434

Eメールアドレス:sizutomo2008@yahoo.co.jp

ホームページアドレス:http://shizutomo.sakura.ne.jp/

(会員数)220人:2017年12月現在

(表紙イラストデザイン:j.T)

編集後記

・iPS細胞の山中伸弥教授曰く、「『植物は万能細胞で出来ている』との仲間のひと言が研究の突破口だった」と。ある樹木医曰く、「樹木は樹皮の内側数mmが生命体」と。一枝の挿し木が次世代を育む神秘&難病の方々の希望が呼応した夏でした。(J.T)

・今号もバラエティーに富んだ内容の会報になったかと思えます。寄稿者の皆様に深謝!!頼りになるもう一人の編集者にも感謝です。我が日常に目を移せば、愛犬の(老々)介護による?心身の疲れとストレスを好きな富士山撮影で癒している自分が見えます。(T.Y)